

2024年3月4日（月）

川辺川ダム公聴会 公述内容

五木村 黒木晴代

私は、熊ヶ嶽（くまがたけ）という江戸力士（本名黒木松治郎）という武士の生家に住んでいます。黒木と申します。

本日、保全の見地からの公述ということで、おおむね三項目に分けて十分間で終わる様頑張りたいと思います。

ちなみに熊ヶ嶽は熊本アーケード街あたりに安政町相撲通りの名称が残っていますが、参勤交代時代はこのような所を御一行様で歩いています。当時は熊本県の吉田司家からの免許状発布で相撲が始まり、今や国技ですね。

では三項目でございますが

- ① 生態系について
- ② 治水について
- ③ 清流日本一は環境教育から

あと、時間があつたら、その他と計画しております。

① 生態系について

川辺川やその支流、谷々から生物が減少したり死滅したりで淋しい限りです。谷川沿いをゴミを拾いながら日々散歩します。

源平蛍（源氏蛍、平家蛍）は池の鶴の五木小川から消え去り、早々とほたる祭りもなくなって久しいです。川二ナが減り、幼虫が上る護岸がこわれ、蛍のとまり木も伐採されたりと変化が著しく、一度失った蛍は今やゼロです。水だけはキレイなので夏場は子どもから大人まで泳いだり遊んだり、あちこちから来てにぎわっています。

沢ガニも道にたくさん出てきて楽しませてくれましたが、見当たりません。

なんとカメまで道に出て歩いていたのに。山の中の谷の方に帰ったんでしょうか。

川に居たヤマメ、アユ、鯉、イダ、メダカ、ウナギ、ナマズ、アブラメまで減少しています。カワ虫もいません。上流の八代泉町のダム付近からの濁り水によってでしょうか。魚の奇形も出ています。特に川と関係した生業の方々は非常に困った状態です。私達ガイドも川を案内するのに。

鳥といえばクマタカ、ふくろう、めじろ、うぐいす、ヤマセミ、カワセミ、スズメが以前の様にはみかけません。カラスやトンビは元気のようにです。鳥で

はありませんが、一羽、二羽と数える野うさぎもきじや山鳥も減りました。

植物では、クレソン、ワラビ、ショウジョウバカマ、春りんどう、福寿草の減少。

国道 445 号の九十九折瀬の有名なコウモリ達などはどうなっているのでしょうか。九大が毎年川を渡って研究していますので、詳しいかと思いますが。

今ざあっと私が気づいた現状を述べてみました。さまざまな原因はありましようが、このような現実、現状の最中、巨大穴あきダムによる生態系へのますますの悪影響が懸念されます。

② 治水について

治水には限度がありますし、貯めて流した場合、エネルギーを高めて、ダムがない場合より危険になります。堤防も高くして決壊すれば、大きなエネルギーで水が放出される。川辺川ダムは、作らないで 10 年間程止まっていたので、五木村は地道に細々と千人もいない人口で頑張ってきました。元・頭地や高野に、公園、ホテル、鹿・猪解体場、バンジージャンプもやっています。民家も 1 件あります。五木の人とは散歩や散策して懐かしむ事も出来ます。畑も作っています。

ダムなし治水を極限までやるといったのに、約束したのに、ほとんど何もやらず、2020 年 7 月 4 日の豪雨災害の検証もそこそこに“穴あきダム”を発言したのは間違っています。何の問題のない川辺川。清流日本一が 17 年連続。藤田という、五木と相良境であり、河原におりればのけぼし山の登山客まで見れまる一番景色のよい所。問題点の多い穴あき計画をぶり返すとは、意味がわかりません。

ダムなし治水を極限まで丁寧にはやらなかったから災害がひどくなりました。

山から川から海から皆つながっていますから、このよき川辺川の流れを止めはなりません。川辺川上流のダム付近からの汚れ水や球磨川市房ダムからのヘドロにも困っています。かつては川辺川も球磨川も船や大きいいかだで木材や品々を流し運んだりしていましたし、ダムなんてないから魚達も自然に遡上していました。今、魚道とか申し訳程度にやっていますが、全く機能していません。チッソの発電取水口の白水地区とか平家トンネル先、五木ダムとかわかりやすいから見て下さい。

③ 清流日本一は環境教育から

清流日本一は環境日本一でありたい。

毎年、夏場になればチピっ子から大人まで川辺川で泳ぎます。街からもたくさんのお客が来て、水にさわって笑顔と歓声が絶えません。教育を受けても

ない子供達は半世紀に及ぶダム問題の事を知らないし、この場が水のたまり場になる事など想像もつきません。私は子供や孫と共に泳いだり石ひろいしたりしていますので、猛反対しています。

川を守ることは、五木他人間の持続可能な環境を守る事です。熊本県、国交省、環境省、林野庁、農水省…治水と治山のバランスをとり、日々真剣に考えて欲しい。貴方がここに住んでいたら、貴方の子どもが日常喜んで遊ぶ川をどうするのか。

④ その他

いつだったか知事より電話がありました。私がダム反対で知事への直行便で長い手紙を出していましたので。途中から長い20分位のバトルになったのですが、はっきり覚えて焼き付いている言葉があります。

「黒木さん、私はダムは欲しくないんですよ」。

後半は

「天の声が聞こえてですね」「天の声が」「天の声が」三回も使われる始末。

私は「県のトップの台詞ですか！」「ガッカリです」と言いました。焼き付いてずっとストレスとなっています。五木村とダム問題を考える時、大切にしなければならぬ事は何か。住む人の願い、期待、心配の心を受け止め、顔を合わせてお互い進歩しなければならぬと考えます。

ダムは作らない、からの約10年。それこそ、ゆっくりですがいい流れで進んでいました。ダム対策課等消え失せてありませんでした。阿蘇地方もすでに立野ダムやメガソーラーで景色が一変して問題になっています。今朝テレビでも丁度やっていました。

知事は五木村を犠牲にして、“天の声”のいいなりになったのか。今からでも謝り、訂正してほしい。

最後に子守唄を歌います。

♪ オロロン オロロン オロロンばい

おどま盆ぎり盆ぎり 盆から先あおらんど
盆がはよ来りゃ はよ戻る

ダムはいいやや ダムから先あおらんど
ダムができれば川が死ぬ

♪